都道府県名	佐賀県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	鹿島市立西部中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	７	７	７	２	２３	４１
生徒数	２６５	２７７	２６６	１１	８１９	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

学びに対する『本格的な興味・関心・意欲』をはぐくむ
　　～授業づくりを見つめ直す～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

○　全学年・全教科

学力については、知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることはもとより、それにとどまることなく、自ら学び自ら考える力などの［生きる力］がはぐくまれているかどうかによってとらえる必要がある。
（H12.12　教育課程審議会答申より）

そのために現時点では、学校での学習に対する興味・関心・意欲についての認識を転換することが喫緊の課題であると考える。

興味・関心…というと、各教科の授業において新たな単元での導入方法が問題にされることが多い、しかし、指導者の学習指導による生徒の変容こそがとりもなおさず［学びの成果］である。ゆえに、ある学習指導ののちに、その単元・領域・分野について生徒がどれほどの興味・関心を抱いたか。学びの発展の可能性があるか。これこそが重要であろう。これを［本格的な興味・関心・意欲］と位置づける。

そこで、本校では「どのような学習指導の方法・技術が、生徒の本格的な興味・関心・意欲を喚起しうるか」に主眼を置いて、授業づくりすなわち指導方法の研究を進めることとする。

そこでは、生徒対指導者という一対の双方向授業を超え、同じ場で学ぶ友人同士の相乗効果に焦点を当てることが肝要である。

上記のような研究の方向性により、全教科部会が全学年にわたって研究を進めることとしている。月１回の校内研究会のスタイルを、研究授業→授業研究会としている。

「指導体制の強化」を研究授業において提案したものは次のとおりである。

○　少人数指導（習熟度別指導体制）

・１年生数学、１年生英語
　基礎的・基本的学習事項の理解の状況に差異を生み出してはならない教科、学年であるため。

・３年生英語
　基礎的・基本的理解の徹底を目指す必要のある教科、学年であるため。

○　ティームティーチング

・１年生理科
　知識の蓄積にとどまることなく、実験方法等パフォーマンスの実際が真に理解されることを目指すため。

・３年生数学
　基礎的・基本的理解の徹底を目指す必要のある教科、学年であるため。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 学びに対する『本格的な興味・関心・意欲』をはぐくむ ○　研究の見通し 本校の校内研究会のスタイルとして「研究授業→授業研究会」が定着することを今年度は目指す。 ○　研究の内容・方法 上記のとおり

平成16年度	○　テーマ 学びに対する『本格的な興味・関心・意欲』をはぐくむ ○　研究の見通し 授業研究の観点として「本格的な興味・関心・意欲をはぐくむ指導と評価」「学習集団における相乗的学習効果」が定着することを目指す。 ○　研究の内容・方法 授業提案の折、学習指導案に上記２点について記す。

(3)　研究推進体制

曜日	月	火	水	木	金
1校時	①	⑦	⑬	⑰	23
2校時	②	⑧	⑭	⑱	24
3校時	③	⑨	⑮	⑲	25
4校時	④	⑩	⑯	⑳	26
5校時	⑤	⑪	（ゆ）	21	27
6校時	⑥	⑫	（ゆ）	22	（ゆ）

水曜五校時の使い方について提案	
第1週の水5……	**学年裁量の時間として必ずとる。** **（・当該学年で設定できる時間）** **（・実力テスト）** **（・実力テストを１～２日で実施した場合は、それに使った授業を必要に応じてここに入れ替えて貼り付け、回復措置を取る。）** **（・その他、学年集会・全校大掃除など）**
第2水5 ……	研究授業
第3水5 ……	第1水5に同じ。
第4水5 ……	第1水5に同じ。
（第5水5） ……	第1水5に同じ。

水曜六校時の使い方について提案	
第1週の水6……	教科部会 （・翌週の研究授業に向けて協議） （・指導案作成、印刷） （・他教科の研究授業で明らかになってきたこと、その「自教科への取り入れ方」や「修正の仕方」について協議） （・その他、今後の指導計画について確認、軌道修正など）
第2水6 ……	授業研究会
第3水6 ……	職員会議
第4水6 ……	学年部会
（第5水6） ……	第1水5に同じ。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

今年度は全教科が輪番制で授業を公開し、全員による授業研究会を行うスタイルの確立を目指した。このスタイルの校内研修を次年度以降も継続させていくためである。

今年度第２回授業研究会での質疑応答の一部を転記する。

研究授業「１年国語：類別作業によって比喩表現の理解を深める」

質問　「のぼるべき比喩」と「おりてきた比喩」の類別は、それぞれ隠喩・直喩としてはいけないのか。前時に生徒が知ったはずだ。

応答　直喩、隠喩という様式とは違った類別を本時ではねらった。つまり、「おりてきた」と感じるか「のぼるべき」と感じるかは個によって違うことを認めた。そこから意見交流によって、どのようなタックタイトル

の貼り替えがあるか。貼り替えをした誰かの発表によって、全体が自身の比喩表現の理解を振り返ることをねらったのだ。また今後、生徒の文章表現を評価・指導するとき、「もっと、読んでくれる人の方におりていこうよ」という声かけで比喩の効果が想起されるよう先の呼称を使った。

質問　類別のためにタックタイトルを色分けさせた点は視覚的によかった。【青いベール】という比喩については安直に映像資料に頼らず、言葉による対話で対象と効果を掘り下げた点がよかった。ただ、この比喩が、「なめらかに揺らめく水の様子」に落ち着いたようになったが、あれはどうか。肌に触れる質感、はっきりと見えない視界を【ベール】とたとえているとも考えられる。

⋮

こういった教師集団の姿勢は、生徒のイメージ喚起力の向上、表現力の向上に総合的に生きていき、国語科の学力にも還元されていくはずである。

このように、他教科からの発言に多くの示唆を得る会が続いている。

記述部分整理票（中学校生徒用） 学校名（鹿島市立西部中学校）

＊独自に設定した設問の記述部分整理票である。

Ⅳ　授業や学習の取組によって、学習内容に対する興味・関心が始まりよりも高くなったという経験があったら教えてください。

1年生	3年生
（新規校） ・理科で、植物の体のつくりなど興味なかったが、授業が終わってから、草取りのときに「根っこクイズ」をしたり「これはひげ根だな」と観察したりする。 （同様の回答7名） ・理科で、小学校のとき嫌いだったけど、いろいろな実験があって楽しい。 ・保健体育で、マット運動で、小学校のときできなかった後転などができるようになり、自信がもてて楽しくなった。（6名） ・英語で、初めは全く分からずに困っていたが、今は少し分かるようになったので楽しくなってきた。 （同様の回答3名） ・英語で、もともと好きだったが、授業が進んでいくうちに英語を使う仕事に就きたいと思うようになった。 ・英語の先生がALTの先生と話しているのを見ていて、自分もああなりたい、いろいろな国の人と話をしてみたいと思う。 ・社会で、歴史（地理）が嫌いだったが、今はだいたいできるようになったし、好きでもある。（2名） ・数学の教科書を最初パラパラとめくったときは、マイナスとかプラスとかでよく分からない言葉が出てきて、こんなのやれっこないと思っていました。でも、先生の話をきちんと聞いて理解しようと必死になっていたらいつの間にか一番得意で好きな教科 ・技術・家庭で、最初はどう作ろうといいやなんて思っていたけど、今では家に帰っても何かを作りたいとか思ったりする。 ・音楽で、中学校になって歌うのが好きになってきた。 ・美術で、人の作品を見ていたら、自分も人に見てもらえるような作品を作り上げたいと思うようになっ ・国語で、本はあまり好きではなかったけれど、授業で教科書を読んだりしているうちにだんだん本を読むようになった。	・国語で、漢字の意味調べなどしていて、自分は日本語の意味を全くと言っていいほど知らないのだと気づき、それからは辞書をよく開いて意味を調べるようになった。 ・国語で、分からない言葉があったら、辞書で調べる。 ・理科で、天気の授業を受けて、天気予報を進んでみたり、空を見る機会が多くなった。 ・社会（歴史）で、坂本龍馬について授業でふれ、いろいろ調べるようになった。

また、上記のような調査結果をもとに、生徒がどのような学びの発展を見せているかを把握し、これに貢献したと考えられる授業の仕組みについて再考・分析を進めた。

２．今後の課題

(1) 研究推進委員会を確立することが望ましい。

(2) 平成１６年度の校内授業研究会について、公開授業の当番を経験年数の多いものから始める。それぞれに学んだ授業づくりの手法を、若手教員が後半から締めくくりの時期に公開するという流れにしたい。

(3) 授業研究の観点として「本格的な興味・関心・意欲をはぐくむ指導と評価」「学習集団における相乗的学習効果」が定着することを目指し、授業提案の学習指導案にこの２点について記すこととする。

(4) さらに、授業研究のために「教材研究の方法」「発問の実際」などいくつかの重点的観点を加設したい。学力向上を目指した共通理解のうえに立って、全員の授業づくりが進められることをねらうのである。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

○　定期テスト、実力テストの成績推移の分析

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　第１回公開授業研究会（平成１５年１２月１２日）
・外部からの参加者２９名（高等学校から５名、小学校から９名）

○　第２回公開授業研究会（平成１６年　２月１３日）
・外部からの参加者１９名（高等学校から３名、小学校から６名）

○　前記した国語の研究授業について『実践国語研究』（明治図書2003.10/11月号）に概要を執筆。

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　☐ １４年度からの継続校

【学校規模】　☐ ３学級以下　☐ ４～６学級　☐ ７～９学級　☐ １０～１２学級　☐ １３～１５学級　☑ １６学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ ＴＴによる指導　☑ その他

【研究教科】　☑ 国語　☑ 社会　☑ 数学　☑ 理科　☑ 外国語　☐ 音楽　☑ 美術　☐ 技術・家庭　☑ 保健体育　☐ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　☐ 無